

飯綱町立

三水小学校

明日へ

令和元年 12月20日

学校だより第12号

文責：山田

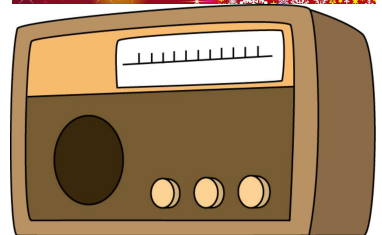
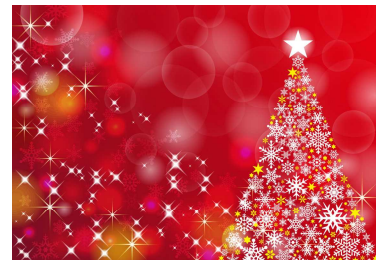
統合によって生み出されるもの

<新しく採り入れて独自のものに>

12月に入ってから、テレビのCM、スーパーや商店、デパートなどでは、クリスマスの音楽がかかり、24日にはおいしいものを飲んだり食べたりして楽しく過ごせるよう盛んに宣伝しています。また家庭でクリスマスツリーが飾られ、ケーキを食べるという習慣も、今や多くの家庭で見られるようになりました。大切な人と過ごし、思い出に残る日にしようとする雰囲気もあります。日本で最初のクリスマスミサが祝われたのは、天文21年（1552年）と言われており、明治43年（1910年）には不二家によるクリスマスデコレーションケーキの原型が発売されたとの記録があります。

以前アメリカにホームステイをした時に、敬虔なキリスト教徒だったホームステイファミリーから、「仏教の国の日本人が、なぜクリスマスを祝うのか」と質問されたことがあります。日本には元々「神道」があり、八百万の神様がいと伝えられています。6世紀には仏教が伝えられ、日本には2種類の宗教があると言われてきました。そのため海外諸国から見れば、日本人がクリスマスを祝うことは不思議に思えるかも知れません。

日本は昔から、他の文化を自分たちの文化へ受け入れるのが上手だと言われています。宗教だけでなく、言葉（平仮名、漢字、外来語のカタカナ）をはじめ、戦後の復興期には外国の物をうまく採り入れて、新たに日本の主流商品に発展させました。例えば、漫画、ポータブルコンパクトカセットテープ再生機、ラジオ、パソコンの半導体、車、バイクなども日本流に発展してきています。こうしたことは、日本人が海外の文化をうまく採り入れることができる柔軟性と、和の精神をもった国民性であることが大きな理由のようです。クリスマスの本来の意味を知らなくても、その日が、家族や大切な人などと分かち合う特別な時間、おしゃれですてきなイベントであることに共鳴したため、日本の社会に受け入れられたのではないかとされています。



<2年目を迎えた三水小学校>

平成30年4月開校の本校は、2つの小学校が統合された新しい学校です。また隣の牟礼小学校とは学校目標、校歌、校章を同じくする新しいタイプの学校として誕生しました。牟礼小学校と三水小学校は双子の兄弟のようによろしく育っていくイメージでしょうか。それまで100年を超える歴史の中でそれぞれの小学校が引き継いできた文化や生活習慣をどうするか、開校前に多くの時間を要して検討を重ねて、現在に至っています。子どもたちも保護者の方々も、「地域の学校」から「町の新しい小学校」へと意識を変えていく必要が生じました。校内外の行事、登下校、日課など、様々な検討をしてきました。様々な考えが出されて検討される中で、更に新しい試みも採り入れながら本校としてのオリジナルが生まれて、2年目の後半に入っています。

児童会はこの小学校でも学校の中心的存在としてあり、役員の児童は忙しく動いています。本校では、今年「縦割り活動」が本格的に動き出し、縦割り班長が新たな役割として生まれています。本校の6年生はひとにぎりの児童だけが役割をもつのではなく、一人一人必ず何か役割を担いながら活動しています。縦割り活動は主に旧三水第二小学校で大切に行われてきた活動でした。三水小学校では縦割り

活動を導入し、児童主体の異年齢交流として位置づけました。今年はさみずっ子祭りでも導入されて、オリジナルな活動となってきています。

- ・ 班ごとに、ゲームなどを通して異年齢交流を行い、親睦を図る。
- ・ 毎日の清掃を縦割り班で行い、6年生が清掃の仕方を指導、反省会をして翌日に生かす。
- ・ さみずっ子祭り（児童会祭り）に縦割り班で参加して楽しむ。
- ・ 全校体育を縦割り班で活動し、一緒に体を動かすことを楽しむ。
- ・ 昼休みにスマイル集会を行い、班ごとに親睦を深める

更に本校には姉妹学年の制度があり、「1・6年」「2・5年」「3・4年」がそれぞれ交流をしています。交流をして異年齢でコミュニケーションを図ることにより、学年・学級に限定されがちなコミュニケーション領域が広がることが期待できます。

- 1年生：お世話になった6年生にお礼をこめて、畑でとれた野菜でお菓子を作り、プレゼントする。
- 2年生：5年生がおいしいと言ってくれるきなこを作る。ありがとうの気持ちを伝える。
- 3年生：学年でのオペレッタ発表会へ4年生を招待する。
- 4年生：児童会行事について3年生に分かりやすく説明する。
- 5年生：2年生が楽しんでもらえるように、きなこをつけて食べる餅を用意する。パーティーの会場準備、進行などを行う。
- 6年生：1年生のクラスへ行って、本の読み聞かせを行う。

こうした中で生まれ育ってきているのが「ケアリング（いたわり）」「ヒーリング（癒やし）」「責任感」「感謝」「信頼」「憧れ」などの意識です。11月に行われた「縦割り全校体育」では、タイヤを馬跳びしながらジャンケンをし、負けると交代しながら端まで行けるかを競う活動で、おもしろくてどんどん自分で始めてしまう1年生や2年生を、優しく声をかけてチームに誘導し、みんなで活動を楽しめるようにしている6年生の姿がありました。リーダーとしての責任感を感じ、班全体のことを考えながら活動をリードしています。また11月のさみずっ子祭りでは、6年生の様子を見ていた児童が次のように日記に書いています。

「6年生は1年生や2年生のごみをひろっていたのすごいいいと思いました」

「来年まねできるようにしたいです」

「来年は自分たちが高学年なので、1・2・3年生にいろいろなことや説明を分かりやすく言ったり、見本になれるようにしたいです」

6年生の間近でずっと活動を見てきている5年生は、今年の学校の良さや課題を話題にして、既に来年度に向けて意識を高め、準備を進めています。統合になってからの子どもたちは、柔軟に新しいものを互いに採り入れ合う中で、新しい学校生活が生まれて、それを楽しむことができるようになりました。通常の小学校ではなかなか生まれにくい意識だと思えます。今後の児童の成長がますます楽しみになってきました。

登校日があと4日となった現在、2学期を振り返ると様々な育ちが見られます。それぞれの頑張りをたたえながら、2学期を締めくくりたいと思います。

